



オマーン・スルタン国 の概史と世界遺産

2023年12月 友野智子

オマーン・スルタン国一般事情



bing.com/maps?q=オマーンより

©2023 友野智子

ja.wikipedia.orgより

面積: 309,500km² (日本の85%)

人口: 500万人

首都: マスカット

言語: アラビア語

宗教: イスラム教イバード派

政体: 君主制

元首: ハイサム・ビン・アル・サイード
国王 (首相と国防省兼務)

産業: 石油、天然ガス関連

GDP: 780憶ドル

一人当たりGDP: 16,933ドル

輸出: 石油、天然ガス

貿易相手国: アラブ首長国連邦、
サウジアラビア



概史

1. 先史時代～ペルシア時代
2. イスラム化
3. ポルトガルによる支配
～海洋帝国
4. イギリス保護国～現在

世界遺産

- ①バット、アル・フトウム、アル・アインの考古遺跡
- ②乳香の大地：交易路と関連遺跡群
- ③バフラの砦
- ④カルハットの古代都市
- ⑤アフラージュ・オマーンの灌漑システム

1. 先史時代～ペルシア時代

10万年以上前から人類が居住



アフリカで大干ばつ
アラビア半島は緑豊か
紅海が浅くて狭かった

BC6C アケメネス朝ペルシアによる支配



6～7C ササン朝ペルシアによる支配



人類史上最高の帝王ダレイオス (barbarossa.red)より

©2023友野智子

en.wikipedia.orgより

2. イスラム化

pinterest.co.ukより

622年 ヒジュラ:ムハンマド
による教団国家建設

630年 ムハンマドがメッカ占
領→オマーン地域にもイスラ
ム教が波及

632年 ムハンマドの死後、諸
族がイスラムに忠誠を誓う



オマーンは辺境の地で中央の力が及ばない
→スンニ派にもシーア派にも属さないイバード派が逃げ込む



宗教指導者の血筋を問わない穏健な宗派

10～11C いくつかの外国勢力の攻撃を受ける

タペストリーより

11～12C セルジューク朝に支配される

(*オマーン地域が領土
になっているセルジューク朝の歴史地図は見当たらなかった)



1154年～ ナバハニ朝が権力を掌握して、セルジュークを追放

バフラ(世界遺産)に要塞を築く
乳香交易で繁栄

en.wikipedia.orgより



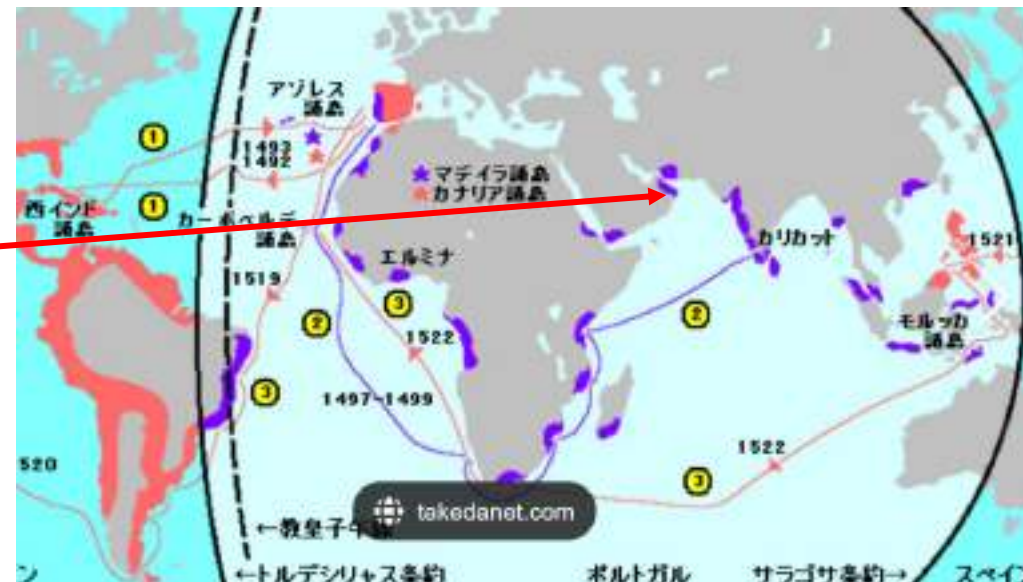
©2023 友野智子



3. ポルトガルによる支配～海洋帝国

15～16C 大航海時代

1515年 ポルトガル人がマスカットを占領



takedanet.com/archivesより

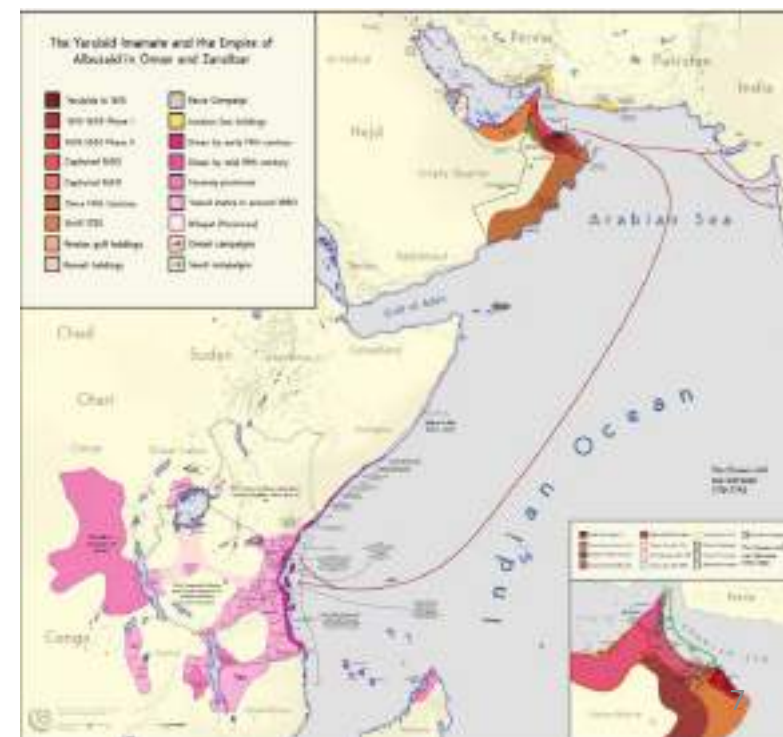
1624年 ヤアーリバ朝が成立

1650年 マスカットを奪回

→アフリカ東海岸、ペルシア湾対岸にも進出

1696年 モンバサを攻撃

1698年 フォート・ジーザスを陥落させる



©2023 友野 智子 en.wikipedia.orgより

モンバサのフォート・
ジーザスは世界遺産
(ケニア)
ポルトガル人が建造



whc.unesco.orgより

オマーン人の広がり→
パキスタンのグワーダルへ
バーレーンを占拠
ザンジバル諸島に入植



©2023 bing.com/maps?qより 及野 智子

18C サイフ・ビン・スルタン治世下
農業が発展

バーティナ地方にナツメヤシを植え、
内陸部から住民を移動・定住させた

大規模なファラジ(世界遺産)を
導入



ja.wikipedia.orgより



1720年 ヤアーリバ朝が滅亡(←サファヴィー朝が攻撃)
→ブーサイド朝が支配
マスカットに遷都、海上貿易で繁栄

1798年 イギリスと通商航海条約を結ぶ
ブーサイド朝のスルタンは政敵対策が目的
イギリスはナポレオン対策が目的



bing.com/maps?qより
©2023 友野智子

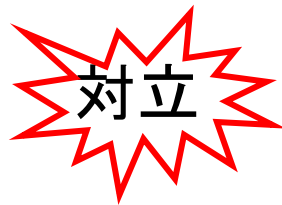
1806年 サイド・サイードが即位
オマーン帝国の黄金期
ザンジバルに遷都

交易品
香辛料、象牙と奴隷

1856年 サイド没→求心力を失い、
オマーンは分裂

海岸部:スルタン(王家)勢力

内陸部:イマーム(宗教)勢力



イギリスが奴隷貿易の禁止を要求

1869年 スエズ運河開通で交易ルートが変わる

急速に衰退、経済が崩壊
マスカットの人口激減



サイド

ja.wikipedia.orgより

19C半ばの領土



4. イギリス保護国～現在

1891年 イギリスの保護国となる
国力が低下しイギリスとの関係を強める

1950年代 油田調査開始
スルタンは採掘技術を持たない部族を味方につけ、内陸部のイマーム勢力を切り崩す
1958年 イマーム勢力追放→現代の領土に

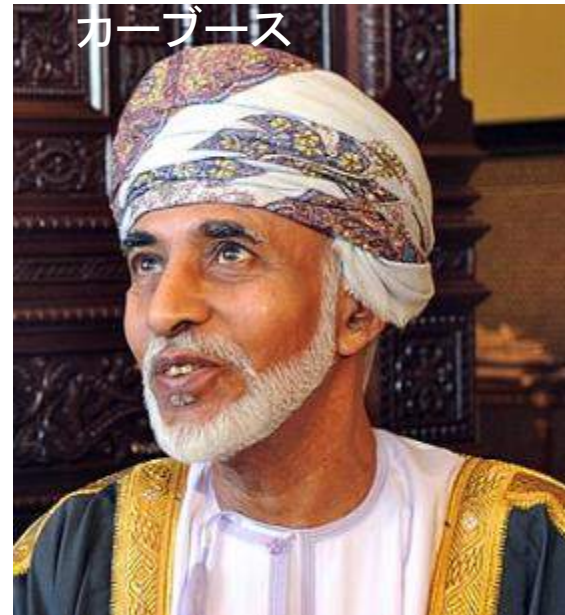
1970年 カーブース即位
石油の本格的開発・輸出開始

1971年 独立

2020年～ 現国王

イランと
の共同開
発の油田

pidahan.blog.fc2.comより



©2023友野智子

50年間統治、スルタンで首相
独裁政権だったが評価は高い
スンニ派、シーア派双方とイー
ブンに付き合った

ja.wikipedia.orgより

①バット、アル・フトウム、アル・アインの考古遺跡

iii、iv

アブダル山地に点在する考古遺跡

青銅器時代にマガン国が造営

BC2500年頃から銅の採掘→メソポタミアに供給

未加工の扁平な石を積み上げたもの
バット、アル・アイン: 蜂の巣状の墳墓
バット: 上部に入り口のある巨大な塔

ja.wikipedia.orgより→

whc.unesco.orgより↓



© Our Place



© Our Place

©2023 友野智子



© Our Place

12

②乳香の大地：交易路と関連遺跡群

iii、iv

www.bing.com/mapsより



ドファール地方は乳香貿易で繁栄
BC1000年頃から最高級の香料、金と同じ価値

カンラン科の樹木の群生が8km²、付近に交易都市や港が点在

ウバール遺跡、アル・バリード遺跡、サムフラム遺跡、ワジ・ダウカ乳香公園



[↑ja.wikipedia.org](http://ja.wikipedia.org)より

whc.unesco.orgより→



© UNESCO

©2023 友野智子



© UNESCO

カンラン科の樹木

②バフラの砦 iv

www.bing.com/mapsより

アフダル山麓、砂漠のオアシス都市に築かれた要塞
12～15C末 バヌ・ネブハン族により日干し煉瓦で建築→16C完成

海からペルシア人、陸からベドウィン等の襲来に備え、多数の要塞
バフラの砦は国内で最大規模



全長12km

上部に巡
視路

監視塔
132



whc.unesco.orgより



© UNESCO



© UNESCO



© Editions Gelbart



© Editions Gelbart

④カルハットの古代都市 ii、iii

11～15C ホルムズ王国の王子たちの治世
アラビア半島東海岸の中心的な港として繁栄

2重の城壁、外側にはネクロポリス
馬、ナツメヤシ、香料、真珠を輸出
→16Cポルトガルが破壊



東アフリ
カ、イン
ド、中国、
東南ア
ジアとの
交易の
証拠



© MHC

whc.unesco.orgより



© MHC

©2023友野智子

⑤アフラージュ・オマーンの灌漑システム v

ja.wikipedia.orgより

井戸の底を横穴でつなげた灌漑システム、天文観測をもとに運営
水を流す時間を日時計などで管理→水資源を公平に分配

アフラージュはファラジの複数形、オマーンに約3000
BC2500年に存在？、起源は500年？

代表的な5つと観測塔、日時計、競売所、住居、モスク等が登録



井戸↓

地下水路↘



©2023 友野智子

whc.unesco.orgより



© Ko Hon Chiu Vincent



近くにモスク



© OUR PLACE The World Heritage Collection



© Ko Hon Chiu Vincent



© Ko Hon Chiu Vincent